

# 論文要旨

## 糖尿病患者の通院遅延・中断に関する コロナ禍前後における比較

生物統計情報学コース

49-226602

石川 紗耶香

背景：糖尿病は重大な健康問題の一つである。日本の糖尿病患者数は年々増加し、早期死亡や経済的負担が社会問題となっている。糖尿病患者にとって血糖値管理は重要である。しかし、新型コロナウイルス(COVID-19)のパンデミックにより慢性疾患患者の通院が制限され、糖尿病患者においても通院遅延や中断が増加した可能性がある。通院の遅延や中断は血糖コントロールの悪化をもたらし、重大な合併症発症の危険性がある。日本ではパンデミックが糖尿病患者の外来通院に与えた影響を大規模に調査した研究はみあたらない。

目的：COVID-19 のパンデミック前後の糖尿病患者の通院遅延・中断リスクを比較し、COVID-19 のパンデミックが通院行動に与えた影響と影響を受けやすい患者の特徴を明らかにすることを目的としている。政策介入の影響評価に適した差の差分析を用いることで、パンデミックによる通院行動への影響を定量的に推定する。

方法：JMDC Claims Database を用いた。2017年10月から2018年9月の期間に少なくとも1回は糖尿病治療薬の処方を受けていた192,239人のうち、2021年9月より前に観察終了している者と糖尿病治療薬の処方が入院中のみであった者を除外した122,436人を対象とした。COVID-19パンデミック前の2018年10月から2019年9月を対照期間とし、パンデミック期の2019年10月から2021年9月を曝露期間と定義した。主要評価項目を通院の遅延・中断とし、その定義を処方間隔が4か月以上とした。パンデミック前後の通院遅延・中断リスクの差を、差の差分析で推定した。性別、年齢、糖尿病罹患期間、BMI、喫煙、糖尿病治療薬使用の違いに着目したサブグループ解析を実施した。また、通院遅延・中断の判定基準、パンデミック期間の変更による感度分析も実施した。

結果：COVID-19パンデミック後、通院遅延・中断のリスクは4.5%有意に上昇した。サブグループ解析の結果、男性や罹患期間の浅い患者でCOVID-19パンデミックによる通院遅

延・中断への影響が大きかった。通院遅延・中断の判定基準やパンデミック期間の変更によっても、パンデミック後にリスクが上昇する結果に変わりはない。

結論：COVID-19 パンデミックは糖尿病患者の通院を阻害する重要な要因であることが示された。また、男性や糖尿病罹患期間の浅い患者など特定の集団において影響が大きいことが示唆された。